

真宗大谷派 長徳寺

新潟県新発田市大栄町 2-7-22



長徳寺



義士祭



長徳寺の創建は、天正 13 年(1585)に関根慶順が開基。赤穂四十七士のひとり堀部安兵衛の生家である中山家の菩提寺。安兵衛も 14 歳まで新発田城下で暮らし、境内には赤穂義士四十七体の木像が収められている義士堂、安兵衛が新発田から旅立つ時に植えたとされる石台松（初代は平成 9 年、老齢のため伐採され現在は二代目）、そして中山家の墓所がある。四十七士によって「吉良邸討ち入り」が行われた 12 月 14 日には毎年、境内にて義士祭が執り行われている。



堀部安兵衛 墳墓

堀部安兵衛をはじめ、赤穂四十七士のお墓は、東京・高輪の泉岳寺様にあるが、新発田市中で堀部安兵衛を顕彰する武庸会が 100 周年を迎えたことを機に、泉岳寺様から分骨を許可いただき、赤穂の花岳寺様からは遺髪塔より土を分けていただき、平成 29 年に長徳寺の境内に安兵衛のお墓が建立された。「安兵衛 300 年ぶりの里帰り」と言われて建立時は大変な話題となった。



中山弥次右衛門 墳墓

堀部安兵衛の父親・中山弥次右衛門の墓。安兵衛が 13 歳の頃、亡くなり、長徳寺に埋葬された。安兵衛も新発田を離れるまで、何度も参拝したと言われている。



義士堂

赤穂四十七士の木像を安置。中央義士会を創設した福本日南や頭山満らの支援を受けた浪曲中興の祖・桃中軒雲右衛門が明治 45 年に寺を参拝した際、寄贈を申し出て、昭和 4 年に建立された。堂内には、木像の他、陸軍大将・武藤信義や首相経験者の若槻禮次郎、新発田出身の高橋光威、会津八一などの「書画」60 点が格天井や壁に納められている。



桃中軒雲右衛門